

こころ であ はし
出会いそしてつながり

心のかけ橋

だい 29 号
第29号

はっこう こなん し じん けん かい ぎ
発行：湖南省人権まちづくり会議

じ む きょく じん けん よう ご か こなん し ちゅうおう いっちょう め ばん ち こなん し やくしよがしちようしゃ かい
【事務局】 人権擁護課 〒520-3288 湖南省中央一丁目1番地（湖南省役所東庁舎1階）
TEL：0748-71-2322 FAX：0748-72-3788 Eメール：jinkyo@city.shiga-konan.lg.jp

あってはならないけど、なくてはならないもの

タイトルの「あってはならないけど、なくてはならないもの」と言われて、何が思い浮かんでくるでしょうか。「あってはならない」と「なくてはならない」という矛盾する言葉ですが、人権・福祉・平和などについて考えるとき、「あってはならないけど、なくてはならないもの」の存在に気づくことがあります。

2025年4月に甲西中学校に夜間学級が設置され、この4月からは二年目を迎えます。これまでも、テレビや新聞等で報道されてきましたので、ご存じの方も多いと思います。

夜間学級（夜間中学と呼ばれることもあります）とは、さまざまな事情で小中学校に十分に通えなかった、あるいは、学ぶ機会を得られなかった学齢超過者に対して、就学の機会を保障するもので、国は、各都道府県、指定都市への設置を目指しています。

この「夜間学級」も「あってはならない夜間学級。けれど、なくてはならない夜間学級。」と言われてきました。

すべての人が学ぶ機会を保障される世の中であれば、夜間学級は必要ないのかもしれませんが。その意味では、夜間学級は「あってはならないもの」です。しかし、さまざまな事情で学校に通えなかった人、不登校を経験した人、外国籍の人など、学ぶ機会を得られなかった、あるいは、奪われた人がいる現状を考えると「なくてはならないもの」です。

今、ようやく「なくてはならないもの」としての取組がスタートしました。夜間学級のような学ぼうとする人の夢をかなえる取組と、小中学校での学びを保障し夢を奪わない取組を両輪として進めていきたいものです。

差別や人権侵害は「あってはならないもの」だと思います。だからこそ、人権についての学びや取組は「なくてはならないもの」ではないでしょうか。

今後も人権まちづくり会議では、「あってはならないもの」に視点を大切にしつつ、「なくてはならない」活動を皆さまとともに進めていきたいと考えていますので、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

かい ちよう なか お
会 長 中尾 功

じん けん かい ぎ しようかい 人権まちづくり会議の紹介	2
かつどう 活動だより	3
し ないしちゅうがっこう じ どうせい と じん けん ひよう ご しようかい 市内小中学校児童生徒の人権ポスター・標語の紹介	10

湖南省人権まちづくり会議とは

湖南省人権まちづくり会議は、湖南省のさまざまな団体と市民によって構成されており、差別のない地域社会をめざして、交流と連携を大切に活動を行っています。

人権まちづくり会議には5つの課題別部会(女性、子ども、障がいのある人、高齢者、外国人)と、全体に関っている人権文化創造部があり、それぞれの部会での研修の企画や開催や広報誌「心のかけ橋」の発行、啓発パンフレットの作成、人権課題の解決に向けた地域活動への協力などを行っています。

地域活動助成金事業

湖南省人権まちづくり会議では、助成金事業(学区5万円、団体3万円が上限)を行っており、人権課題の解決のために地域活動に取り組んでいる団体や組織の活動を支援しています。

このような活動を行っている皆さんは、ぜひ一度ご相談ください。

2025年度の助成金事業

(学区)

〇三雲学区まちづくり協議会

三雲学区住民のつどい「Human RightsLIVE! ～人権の扉を開け、心を揺さぶる音の力～」

〇岩根まちづくり協議会

人権セミナー「いのち 愛 きずな」

〇石部学区まちづくり協議会

映画「破戒」上映

〇石部南学区まちづくり協議会

住民のつどい「みんなが住みよいまちづくり」

〇三雲地域福祉と人権のまちづくり協議会

人権セミナー「積もる話はいろいろと…」

(団体)

〇国際交流グループ「カリーニョ」

結成9周年記念イベント「多文化共生ライブ&交流会」

地域の身近な国際交流グループをめざして誕生したグループ。イベントでは国内外で活躍するギタリストの演奏鑑賞と参加者との交流を行いました。

〇日本語学習広場「かみやんど」

「かみやんどファミリークッキング」

外国にルーツを持つ人の学習支援や多文化交流イベントを行っているグループ。イベントでは食を通した多文化理解や交流を行いました。



活動だより

ひとりぼっちのいないまちづくり

開催日: 2026年1月15日(木曜日)

講師: 岡本 工介 さん (一般社団法人タウンスペースWAKWAK業務執行理事兼事務局長、関西大学人権問題研究室委嘱研究員)

演題: ひとりぼっちのいないまちづくり

講座の概要

差別の現れ方、子どもの貧困や孤立の問題などについて、岡本さんの現場での経験をもとにお話いただきました。

これまでのような明からさまな差別は減少したものの、利害が絡む場面での差別や排除、そして見えにくい形で残る差別への継続的な気づきと対応の必要性を教えてくださいました。

また、子どもの貧困の現状については、個別の支援だけでなく、地域全体で子どもたちを優しく「見守るネットワーク」を育む重要性をお話いただきました。行政や学校、福祉、NPO、ボランティア、地域住民など多様な主体が連携することで、子どもたちの孤立を防ぎ、成長を支え合える社会を築くきっかけになるとのことでした。

この講演では、今なお続く部落差別という課題と、現代の子どもたちが抱える貧困や孤立に対し、深く考える貴重な機会となりました。差別は決して過去の

ものではなく、形を変えて存在し続けていること、そして、子どもたちの笑顔を守るためには、「ひとりぼっちにしない」という強い思いを持って、ネットワークを築いていくことが大切だと、改めて感じました。

参加者からの感想(一部抜粋)

- ・ここで生まれてよかったと思えるまちづくりに関わっていきたくて思いました。
- ・地域の人が、子どもの貧困、部落問題を知り、解決に向けて参画するまで何が必要か考えていきたくて思いました。



活動だより

みんなで考えよう！

男女共同参画とジェンダー平等

女性の人権部会

女性の人権部会では、「みんなで考えよう！男女共同参画とジェンダー平等」と題した講座を、2025年12月1日(月曜日)に開催しました。第1回豊かなつながり創造講座と女性の人権部会の共催で、聖泉大学准教授の富川拓さんを講師にお迎えし、ワークショップ形式で日常に潜むジェンダーの問題について考えました。

当日は参加者同士がグループに分かれ、普段は気づきにくい「なんか、もやもやする」場面を出し合いながら話し合いを進めました。職場での「女性なのに頑張ってるすごいね」といった一言や、地域の集まりで「こういうときは男が出たほうが…」と言われる場面など、誰にとっても身近な例が挙がり、日常のなかで、気づか

ないうちに男女の役割分担やジェンダーの壁が潜んでいるということが分かりました。

「男らしさ」や「女らしさ」にとらわれず、お互いの個性を尊重し合うような社会の実現が必要だと感じることでできたワークでした。

参加者からの感想(一部抜粋)

- ・日常のモヤモヤをみなさんと共有できてよかったです。
- ・社会の課題を聞いて、それぞれがそのことについての思いを交流し、少しでもより良い社会になるような対話をしていくことが大事だと思いました。



活動だより

子育てのアンラーニング

子どもの人権部会

子どもの人権部会では、2025年7月11日(金曜日)の第1回出合い・気づき発見講座「子育てのアンラーニング～子どもたちが教えてくれたこと～」に参加しました。講師の杉之原千里さんから、場面緘黙症と向き合いながら、パティシエとして活躍する娘・みいちゃんを支えてこられた経験をもとに、子どもと接する際に大切にしてきたこと、日々実践してきたことをお話いただきました。

講演では、杉之原さんが特に大切にしてきた3つの視点を紹介いただきました。第一に、子どもの好奇心を育てること、第二にさまざまな経験を「宝箱」として蓄え、その中から親の目で子どもの個性や得意分野を見極めていくこと、第三にできるかどうかを大人のものさし

で判断するのではなく、子どもが挑戦できる場をそっと用意することでした。

子どもがのびのびと育つ環境をつくるためには、日々のかかわりを見直し、子どもの好奇心や挑戦の機会を大切にしていくことが必要だと思います。杉之原さんの実践に学びながら、私たちも子ども一人ひとりの個性を尊重する取組を今後も進めていきたいです。

参加者からの感想(一部抜粋)

- ・子どもたちには、やりたいことをどんどんやらせてみようと思いました。
- ・自分の子どもとの接し方を考えなおすきっかけになりました。



活動だより

はったつしょうがい
発達障害って、なんだろう？

しょうがいのある人の人権部会

障がいのある人の人権部会では、2026年2月6日(金曜日)に、第4回豊かなつながら創造講座「発達障害って、なんだろう？」に参加し、部会長の宇野正信さんにお話をいただきました。

発達障害には自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如・多動症(ADHD)、学習障害(LD)などのタイプがあり、その人によって「得意なこと」と「苦手なこと」が混ざっているというお話をうかがいました。例えばASDでは、人とのやりとりが苦手だったりしますが、具体的な事柄への理解や部分・細部への注目・集中が得意といったような特性があることを教えていただきました。

人には、背の高い人や低い人、話すのが得意な人と苦手な人などがいるようにさ

まざまな個性があり、発達障害もまた、みんな同じではない“個性”の一つです。その“個性”や特性を知らずに接することで、当事者の“困りごと”が多くなってしまいうことがあります。お互いを理解し合うことを通して、互いを尊重できるまちづくりが大切だと改めて感じました。

参加者からの感想(一部抜粋)

- ・今日学んだことを胸に、当事者の方と関わり続けたいと思いました。
- ・苦手なことができるようになる工夫を意識したいと思いました。

湖南市では「障害」を「障がい」と表記することとありますが、本パンフレットで名詞として使用する場合は、「障害」と表記しています(部会名をのぞく)。



活動だより

これって虐待？ ～あなたの気づきで孤立を防ごう～

こうれいしゃ じんけんぶかい
高齢者の人権部会

こうれいしゃ じんけんぶかい
高齢者の人権部会では、2025年12月13日(土曜日)に開催されたNPO法人ぱんじー主催の権利擁護セミナー「これって虐待？～あなたの気づきで孤立を防ごう～」に参加しました。セミナーは演劇とグループ討議があり、演劇は身近に起こりうる高齢者介護の課題と、虐待の予防について考えるきっかけとなりました。

じょうえん げき にんちしやう かか ちちおや
上演された劇は、認知症を抱える父親を引き取った家族を描いたもので、露骨な暴力や極端な虐待のケースではなく、どの家庭にも起こり得ると感じさせるものでした。ベッドで寝たきりになった父がある歩けなくなることを懸念して無理にリハビリをさせる息子、認知症の義父の言動にいらだちを覚えながらも介護に一生懸命取り組む息子の妻、そして「虐待ではないか」と心配する近隣住民、登場人物それぞれの行為に悪意があるわけで

はなく、不安や責任感、介護の疲れ、周囲の無理解といった複雑な感情から生まれている点が印象的でした。

このセミナーを通して、日頃からの小さな声かけや支え合いが、孤立を防ぎ、安心して暮らせる地域づくりにつながると改めて感じました。

さんかしゃ かんそう いちぶばっすい 参加者からの感想(一部抜粋)

- ・虐待かどうかはすぐ決められることばかりではなく、家族の気持ちや体調などを一緒に考える必要があると思いました。
- ・近所の人や周りの人がおかしいなと感じたときは、責めるのではなく、相談にかなげるように声をかけることが大事だと思いました。



活動だより

「うちなる国際化フォーラム」に参加して

外国人の人権部会

外国人の人権部会では、2025年12月13日(土曜日)に開催された、うちなる国際化フォーラム「多文化共生のまちづくり～ともに生きる社会への模索、心の壁や差別をどう超えるのか～」に参加しました。フォーラムでは、筑前市国際交流協会の岩城あすかさんに、ご自身の経験を踏まえながら、多くのことをお話しいただきました。

岩城さんは、トルコのイスタンブール大学への留学をご経験され、トルコ地震の復興支援にも携わることなどから、現在の多文化共生の活動につながるお話をしていただきました。

誰もがありのまま共に暮らす社会づくりのために何ができるのか、構造的な問題やマイクロアグレッション(無自覚の偏見によって生み出される日常のありふれた差別的言動)について詳しく語られ、二人一組でワークシートを活用して話し合い、参加者同志で多様な視点や意見を共有し

合いました。

最後に、外国人市民とのコミュニケーションの取り方や外国人市民と日本人市民の双方向の人間同士の交流、協働の「市民力」を高める取組など、大切にしていることと、大切にしたいことを話されました。多文化共生のまちづくりに向けた、気づきの多い時間となりました。

参加者からの感想(一部抜粋)

- ・ワークショップがあつて効果的に学習でき改めてマイクロアグレッションについて考える機会となりました。
- ・トルコ地震の復興支援に行った時の、被災者との交流のお話などを聞けてよかったです。



あなたにその声がきこえますか ～戦後80年を迎えて～

人権啓発パンフレット「あなたにその声がきこえますか～戦後80年を迎えて～」を
発行しました。どうぞ手に取って読んでいただき、地域などの学習や話し合いにお役立
ててください。

あなたにその声がきこえますか
～戦後80年を迎えて～



本パンフレットは、戦没者遺稿集『きけ わだつみのこえ』の題名のもととなった歌を
詠んだ詩人・藤谷多喜雄さんが湖南市出身であることを出発点とし、藤谷さんのお孫さ
んへのインタビューや、湖南市在住の戦争体験者の聞き取りを掲載し、地域に残る記憶
と私たちが今考えることを伝えています。

入手・利用案内

冊子は数に限りがあります。希望する人は、湖南市人権まちづくり会議事務局までお問
い合わせください。

市内児童・生徒

人権ポスター



いわねしょうがっこう ねん おかむら ゆずき
岩根小学校 5年 岡村 柚希



ぼだいじきたしょうがっこう ねん はまぐち かずま
菩提寺北小学校 4年 濱口 和真



みくもひがししょうがっこう ねん まえだ りほ
三雲 東 小学校 5年 前田 莉帆



いしべしょうがっこう ねん はまさき ひより
石部小学校 6年 濱崎 ひより



ひえちゅうがっこう ねん のむら まりん
日枝中学校 2年 野村 茉莉凜

人権標語

とも 友だちと えがおたくさん きずなの輪

みくもしょうがっこう
三雲小学校

5年

にしむら ちきと
西村 千彩都

おも 思いやり こころ 心ぽかぽか あったまる

みとしょうがっこう
水戸小学校

5年

いのやま ひまり
猪ノ山 ひまり

こまり顔 気づける君は すてきだな

ぼだいじしょうがっこう
菩提寺小学校

5年

やぶ ほのか
藪 穂香

ひと ひと 人と人 つながるすべは 無限大

いしべちゅうがっこう
石部中学校

2年

もりち みお
森地 凛